

第25期

# 定時株主総会

イーレックス株式会社

2023年6月23日



脱炭素社会の実現に向けて



## 地球温暖化が原因とされる自然災害が深刻化



地球規模でのCO2削減に向けた取組みが急務

## 脱炭素にむけた世界的潮流は不可逆



再エネの発電能力は世界で 5 割規模へ

アジア各国では地域特性に応じた脱炭素と経済成長を同時追求



未利用や新しいバイオマス資源の活用が有効

日本はCO2排出量あたりのGDPが先進諸国で低位

2023年2月、政府は「グリーントランスフォーメーション  
(GX) 実現に向けた基本方針」を閣議決定

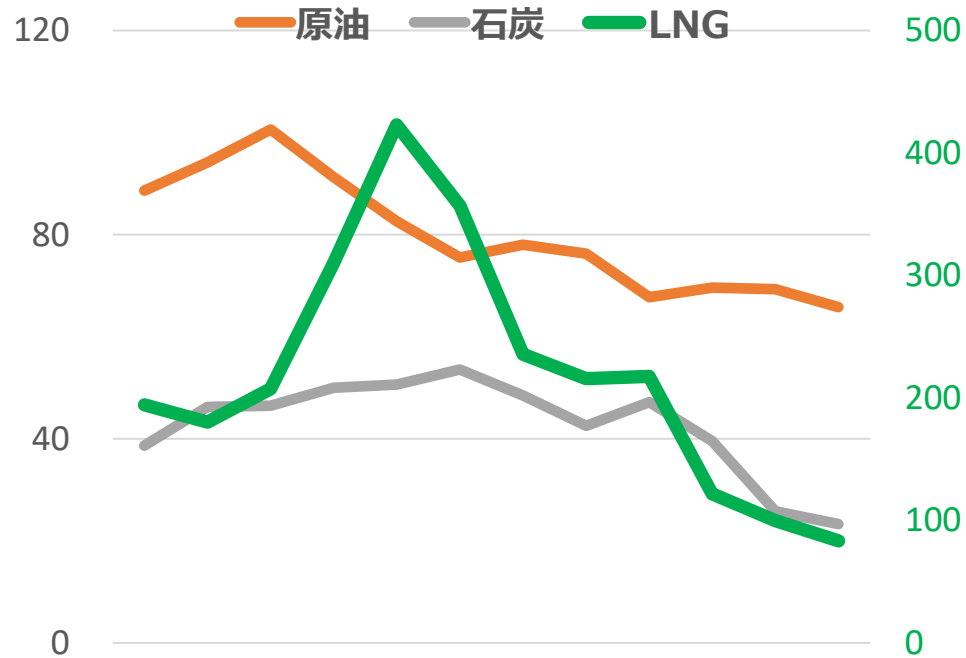
**「成長志向型カーボンプライシング構想」**

気候変動対策と産業競争力強化・経済成長を同時に実現

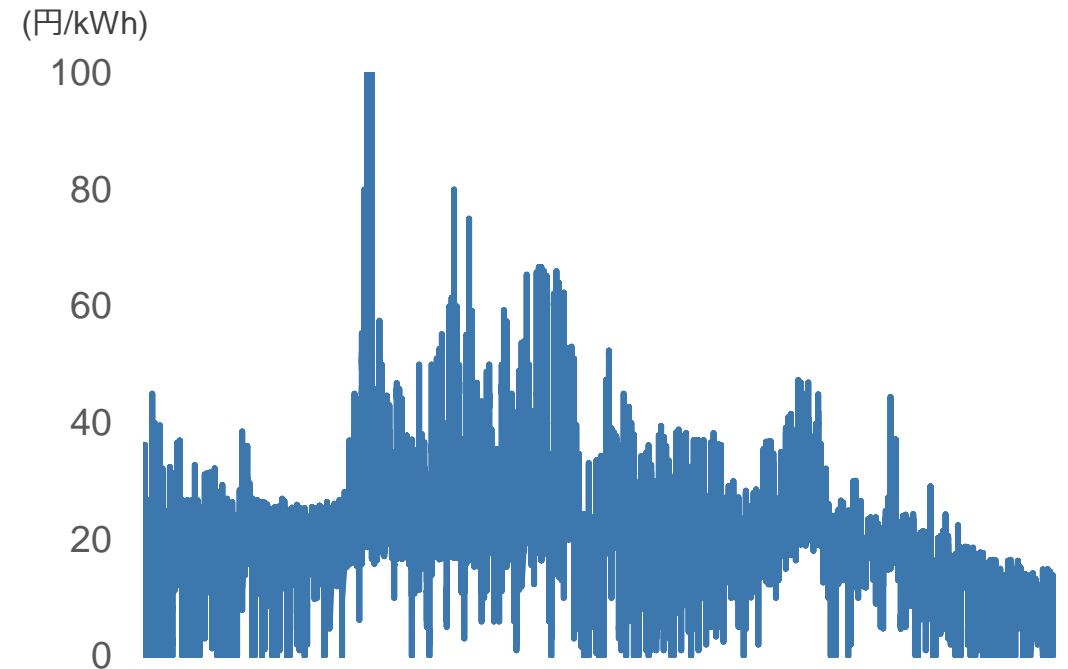
脱炭素に向けた取組みが経済的価値に結び付くことに

## かつてないほど不安定・不確実な事業環境

### 輸入化石燃料価格の変動



### 国内電力市場価格の変動

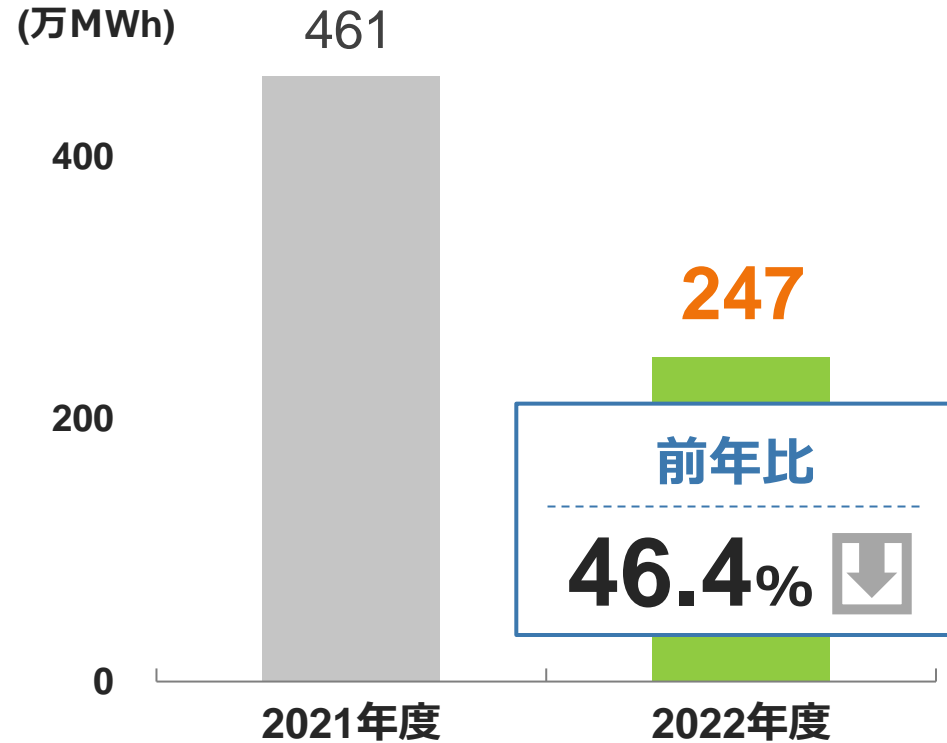


## エネルギー業界の大きな転換期

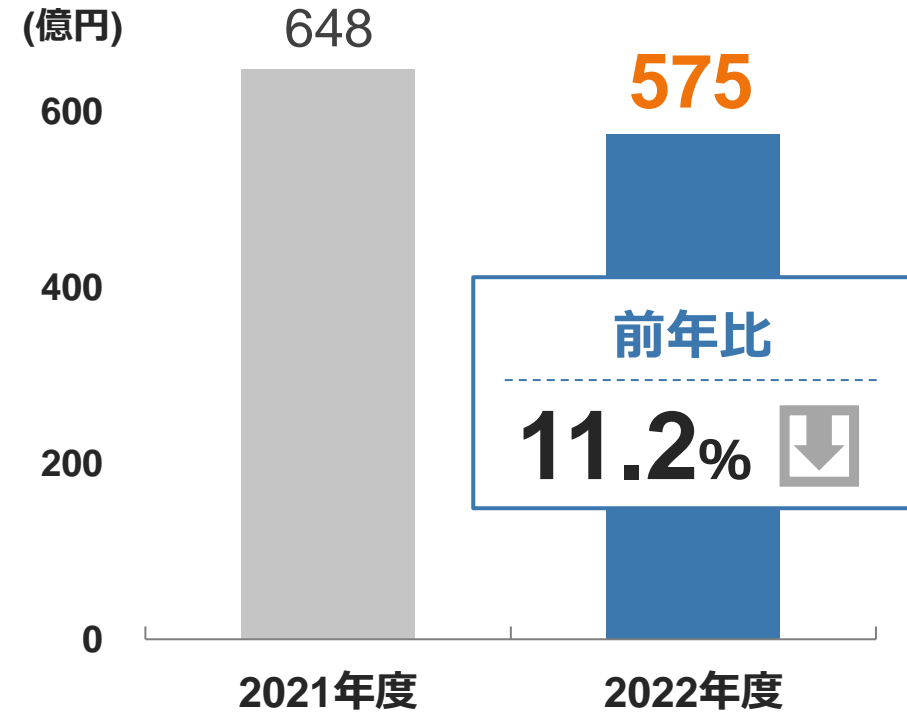
# 2022年度の振り返り



## 販売電力量

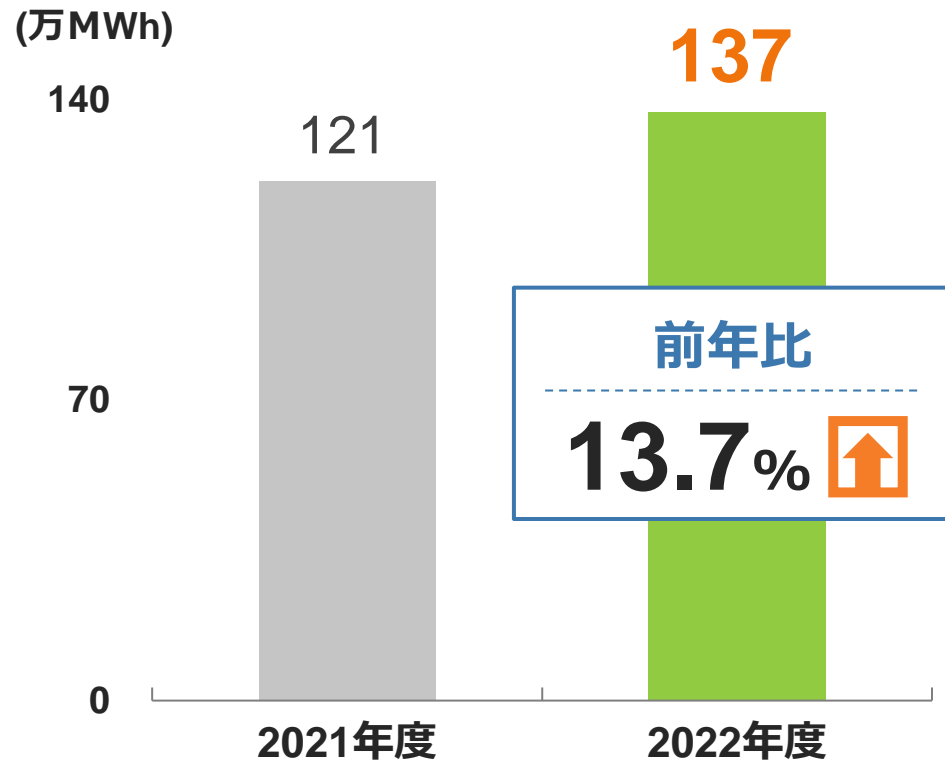


## 売上高

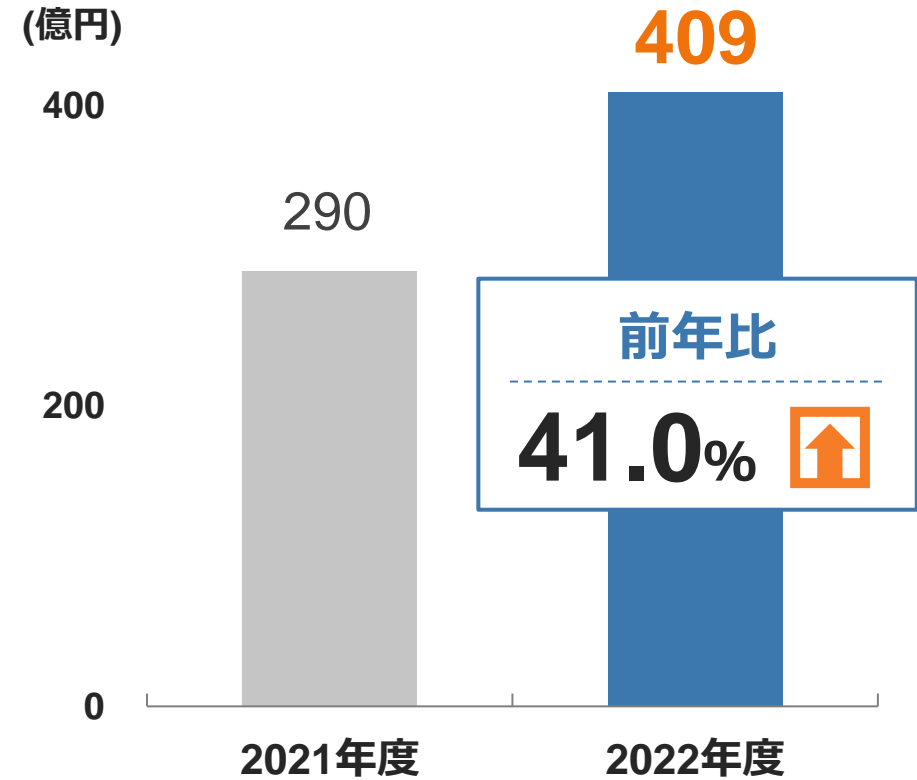


利益重視の販売施策を推進し収益性は向上

## 販売電力量

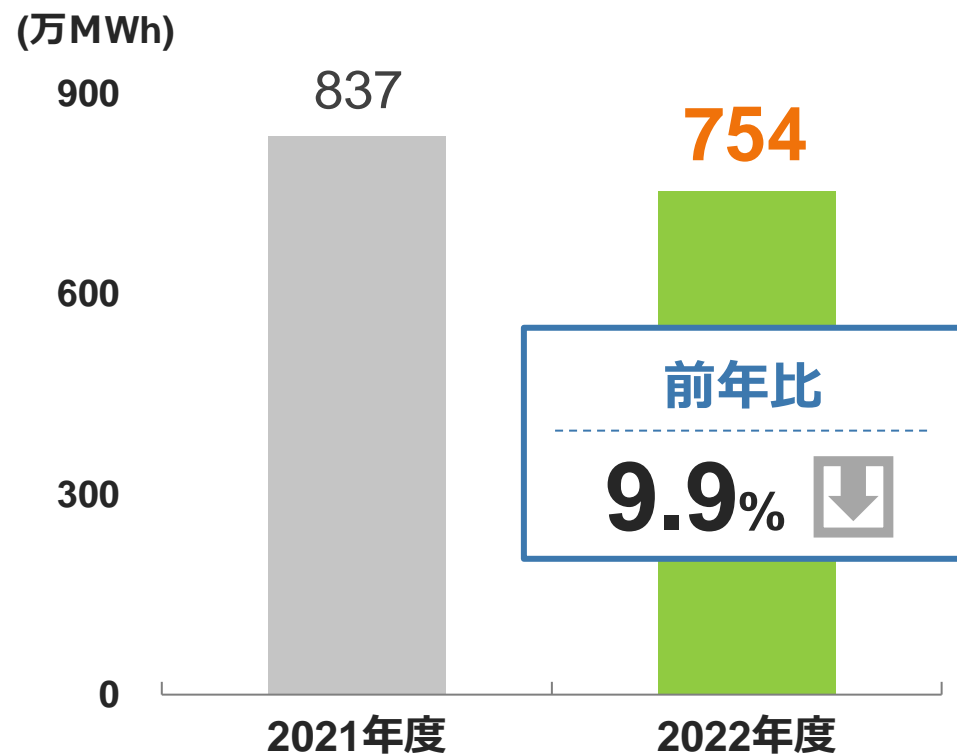


## 売上高

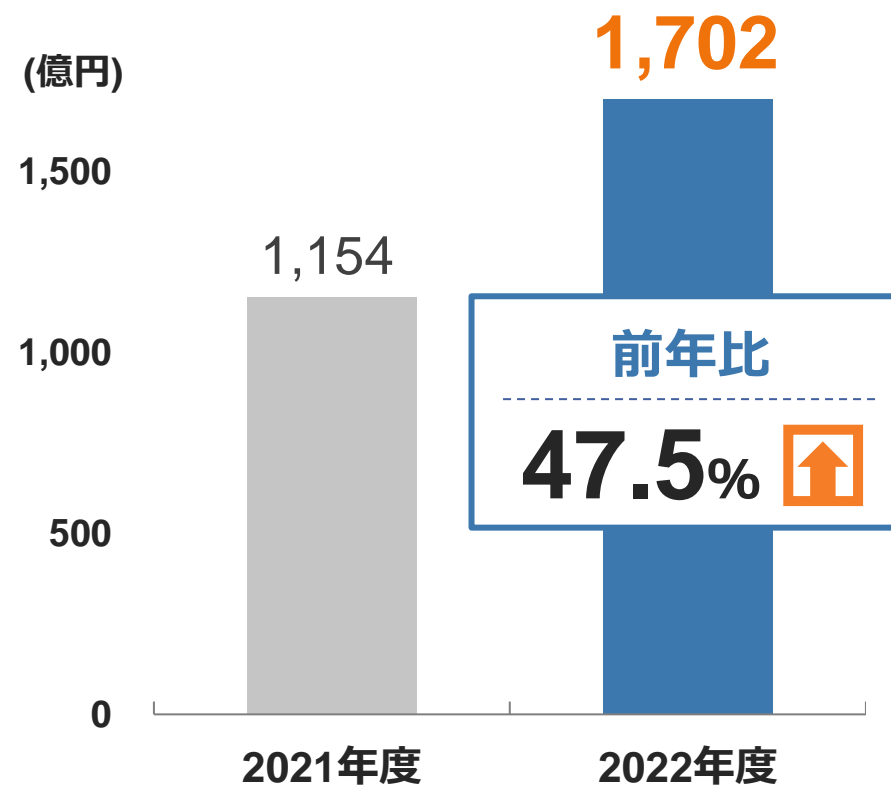


収益性の高い需要家を中心に新規顧客を獲得

## 販売電力量



## 売上高



様々な電力取引を組み合わせることで運用し収益を安定化



既存バイオマス発電所は順調に稼働

## 糸魚川発電所

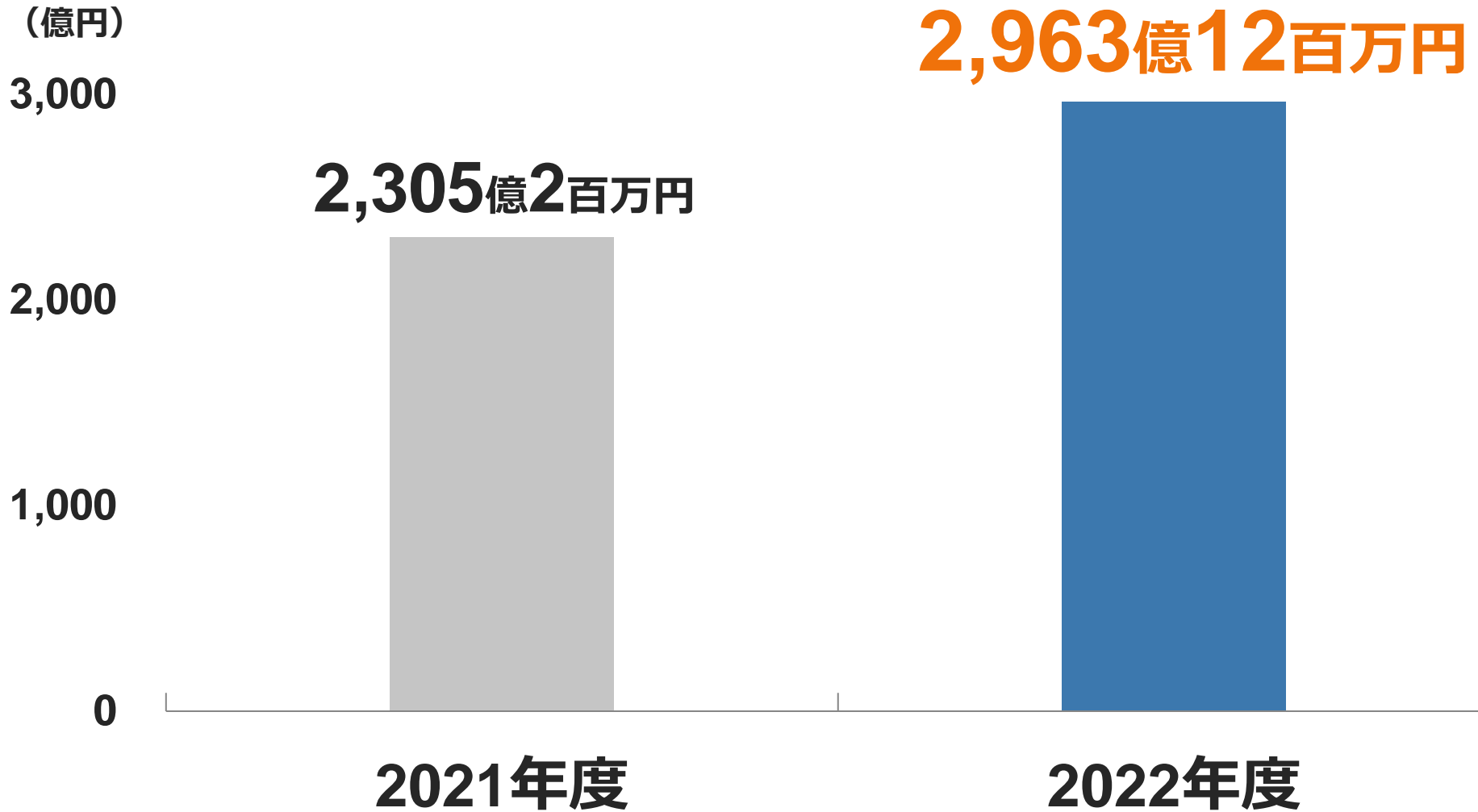


## Non-FIT大型バイオマス発電所

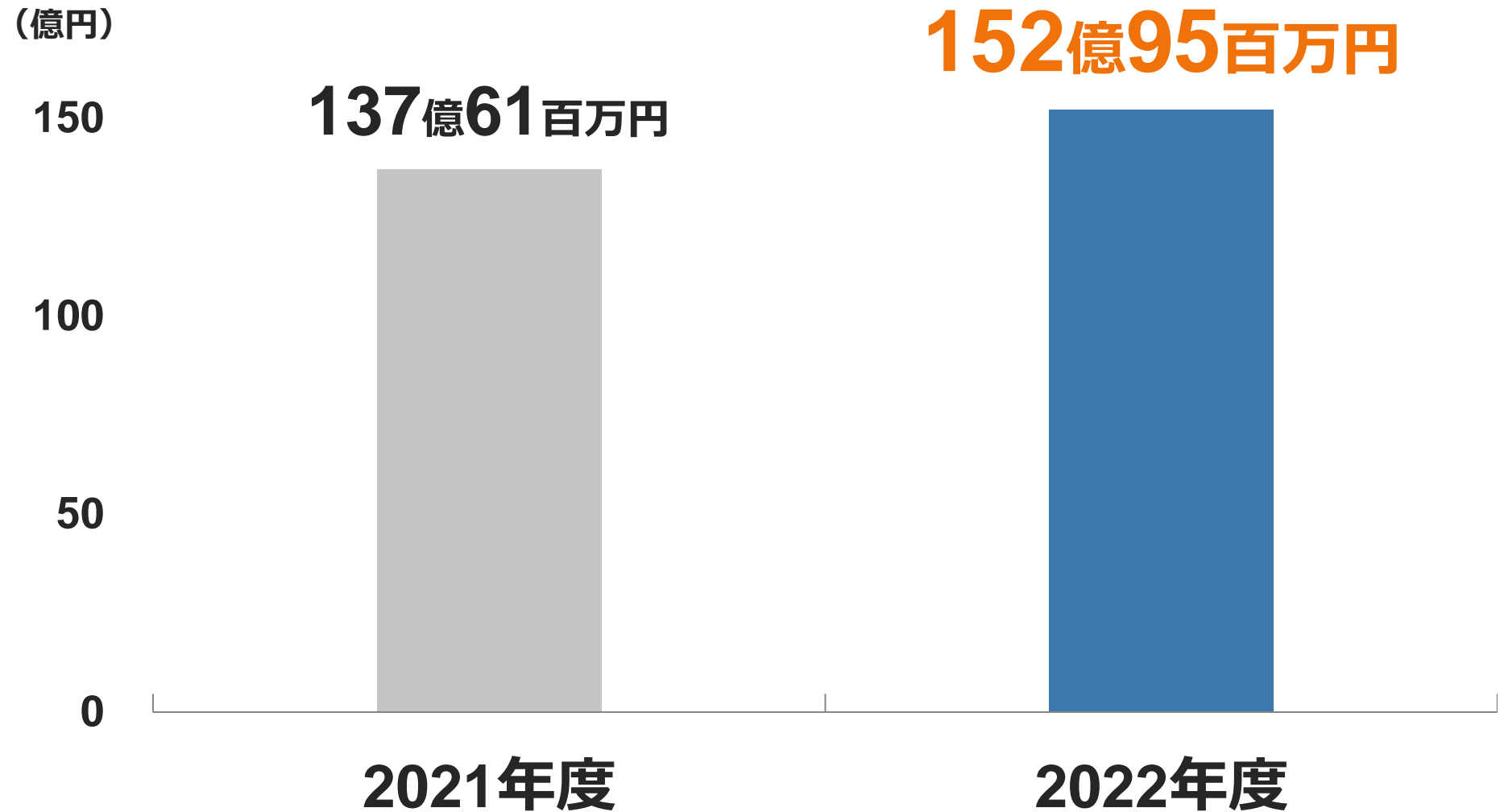


国内外で脱炭素に向けた事業展開

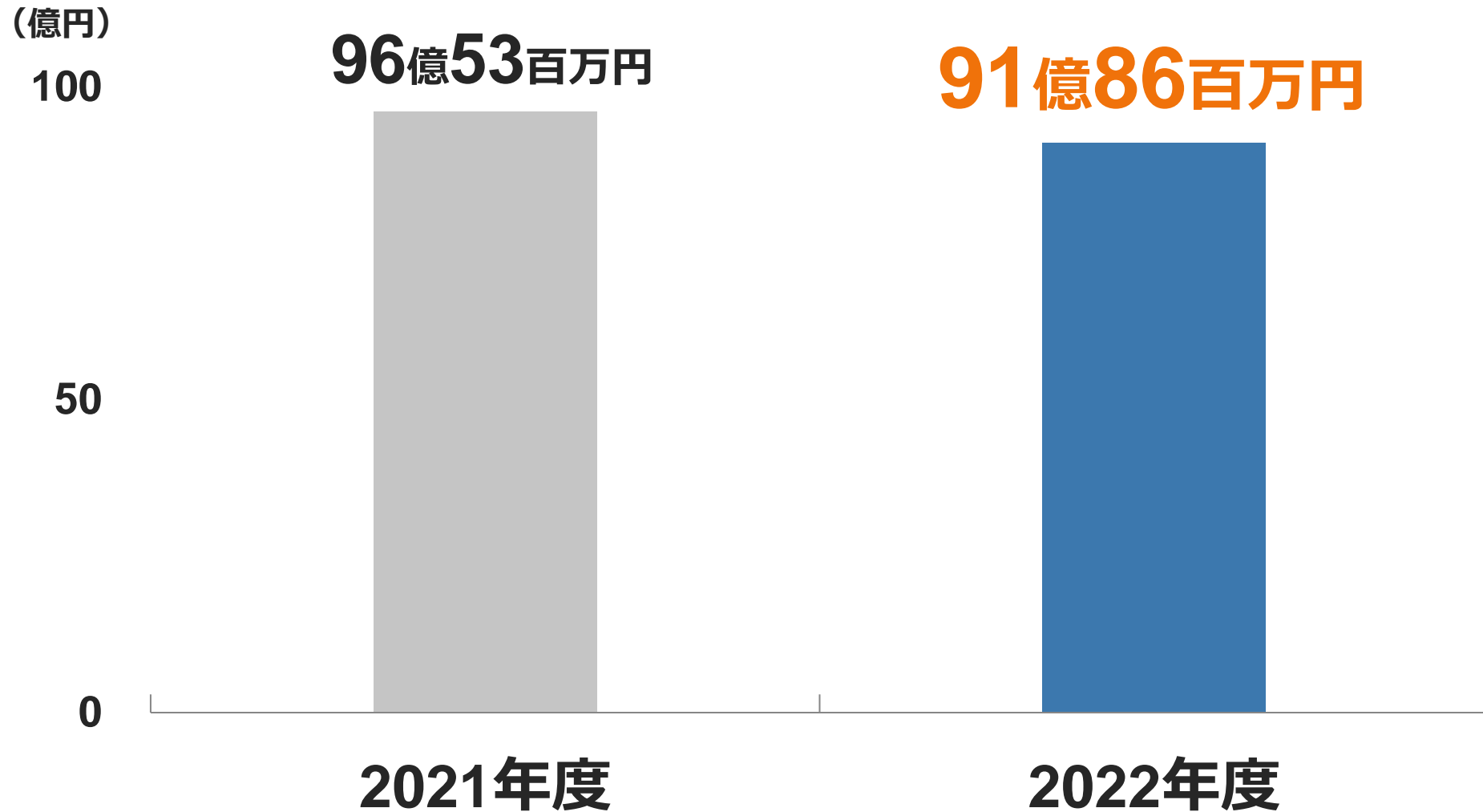
## 売上高は過去最高



## 卸売や高圧小売の単価上昇により過去最高益



前年度にあった繰越欠損金による法人税減が生じず減益



# 連結貸借対照表

招集ご通知 33ページ

# 連結貸借対照表 (2023年3月31日現在)

## 資産合計

1,714億80百万円

前年度末比

143億20百万円

流動資産

793億29百万円

前年度末比

98億79百万円

固定資産

921億50百万円

前年度末比

44億41百万円

## 負債合計

970億89百万円

前年度末比

67億50百万円

流動負債

484億 0百万円

前年度末比

54億44百万円

固定負債

486億89百万円

前年度末比

13億 6百万円

## 純資産合計

743億90百万円

前年度末比

75億69百万円

# 連結損益計算書

招集ご通知 34ページ

売上高

2,963億12百万円

前年度比

28.6% 

営業利益

148億84百万円

前年度比

19.1% 

経常利益

152億95百万円

前年度比

11.1% 

親会社株主に帰属する  
当期純利益

91億86百万円

前年度比

4.8% 

市場動向を見ながら様々な電力取引を機動的に運用し収益安定化を実現

電力小売では利益重視の販売施策を推進し収益性が向上

ベトナムでバイオマス燃料開発・バイオマス発電所建設プロジェクト(PDP7)を推進

カンボジアの水力発電・水素発電の実証・台湾の太陽光発電などのプロジェクトも進展

➤ 売上高、経常利益が過去最高

➤ 脱炭素社会の実現に向けた本格展開開始動  
➤ 新たな事業基盤構築への移行期

# グリーン成長戦略



## 脱炭素の潮流を前提とした海外成長戦略

# 「強守」と「展開」

## 国内基盤強化と海外展開

2023年度～2025年度

### 更なる成長への準備期間

- 小売事業再構築、コーポレートPPA等への注力
- 発電・燃料一体の徹底的な効率化
- 大型バイオマスPJ、フューエルコンバージョン推進
- ベトナムバイオマス/台湾PV/カンボジア水力の運開

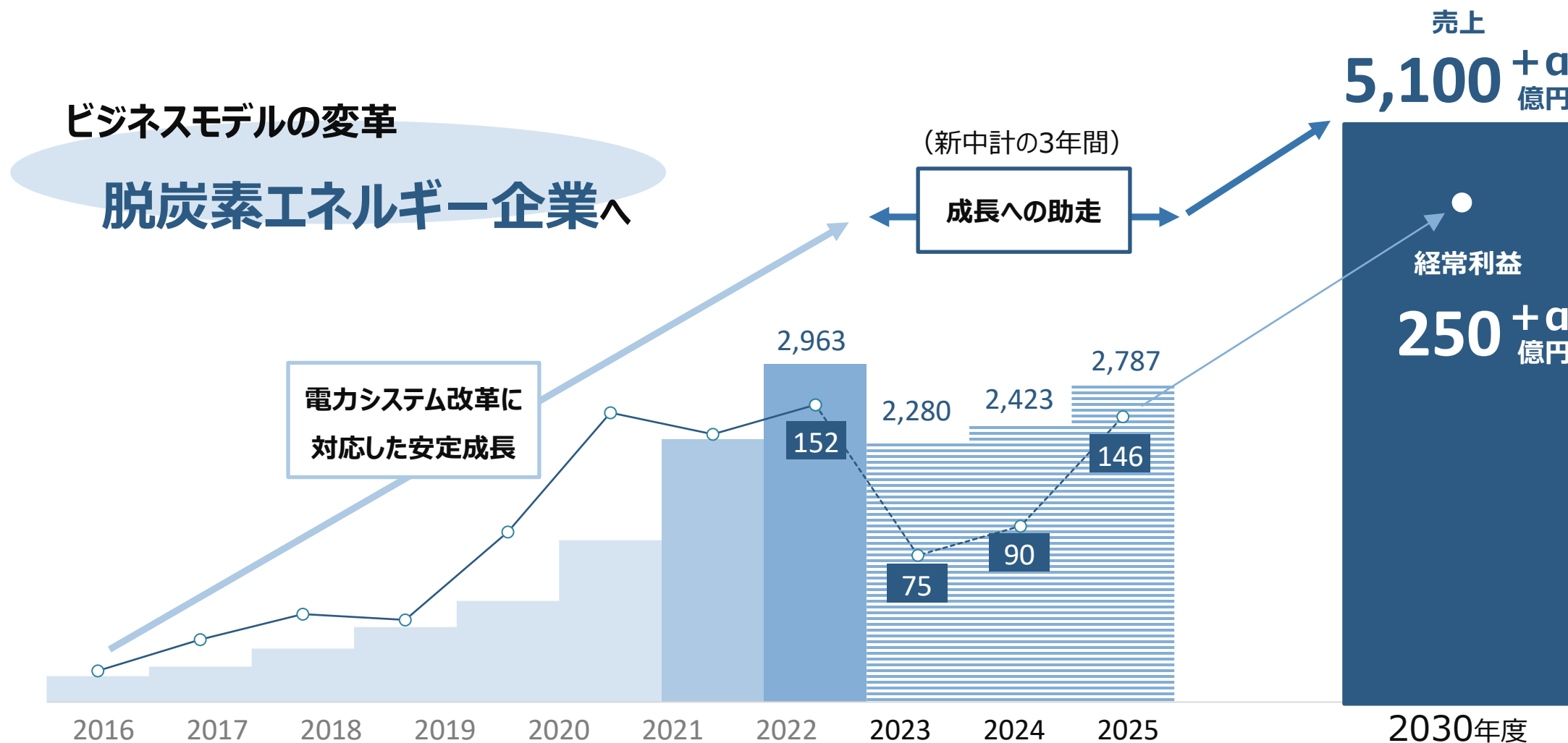
- ① アジア圏での社会貢献
- ② カーボンクレジットビジネスの海外展開
- ③ 燃料による競争力創出

2030年度

### グリーン成長戦略

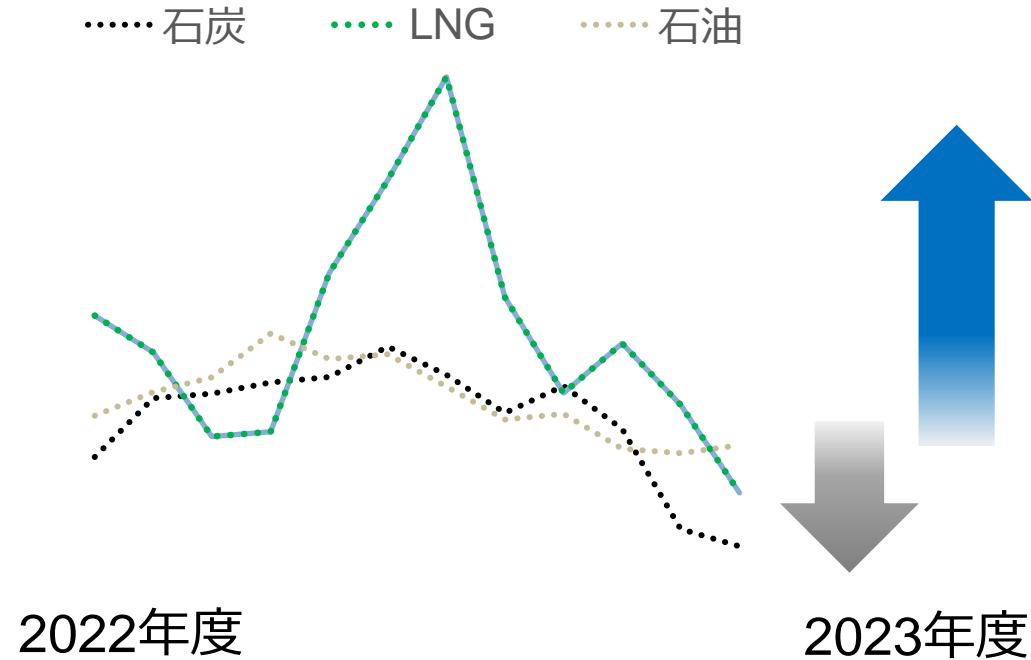
- ベトナムプロジェクトの実行
- バイオマス未利用 / 新燃料による競争力強化
- アジア圏にエネルギー課題解決を展開

## 先行投資期間を経て再び成長軌道へ

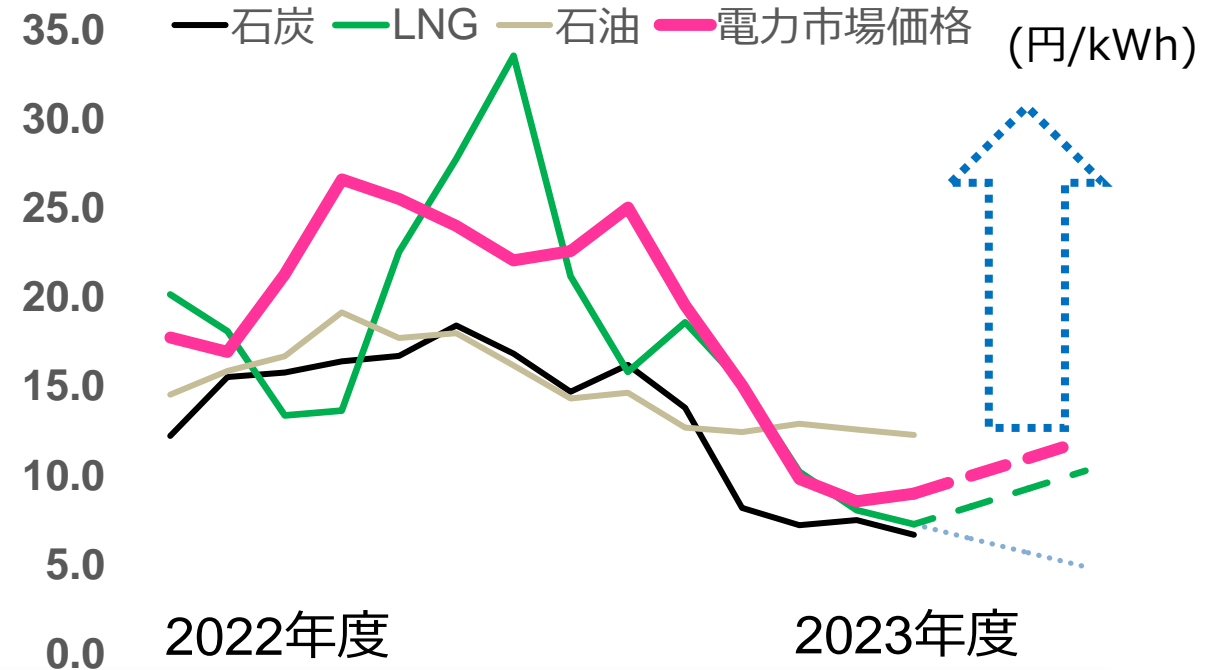


## 燃料価格・電力市場価格ともに大きく変動

### 化石燃料価格の変動



### 電力市場価格との相関

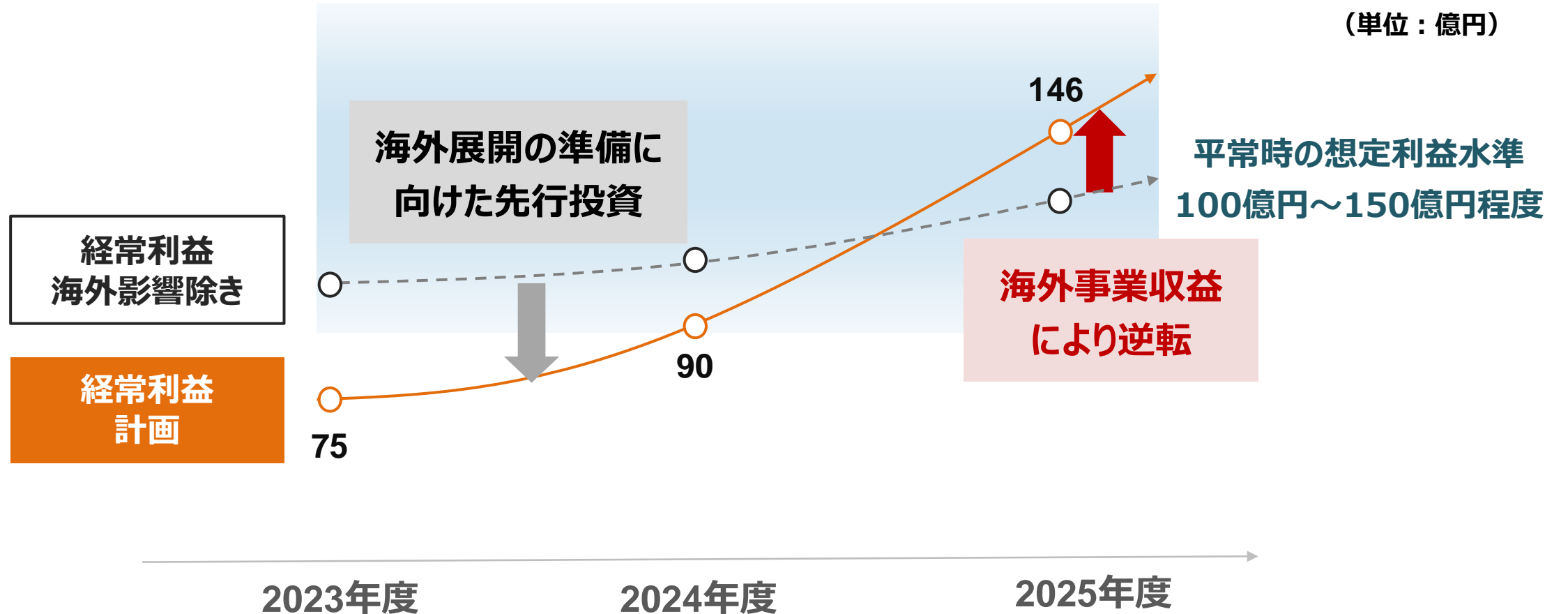


市況の大幅変動を前提にした戦略を構築

## 海外事業投資は成長に不可欠

### 海外事業投資の利益への影響

(単位：億円)



## 国内基盤強化と国内外でグリーン成長戦略を展開

### 強守

- ✓燃料～小売の一貫体制で堅牢な事業基盤構築
- ✓需要・発電一体での再エネへの取り組み
- ✓徹底的な効率運営

### 海外事業

### 展開

- ✓ベトナムにおける燃料・発電事業の迅速な推進
- ✓同様の課題を抱えた国・地域への展開
- ✓バイオマス燃料・発電におけるトップランナーへ

### 国内事業

**2030年**

売上高 **5,100** 億円

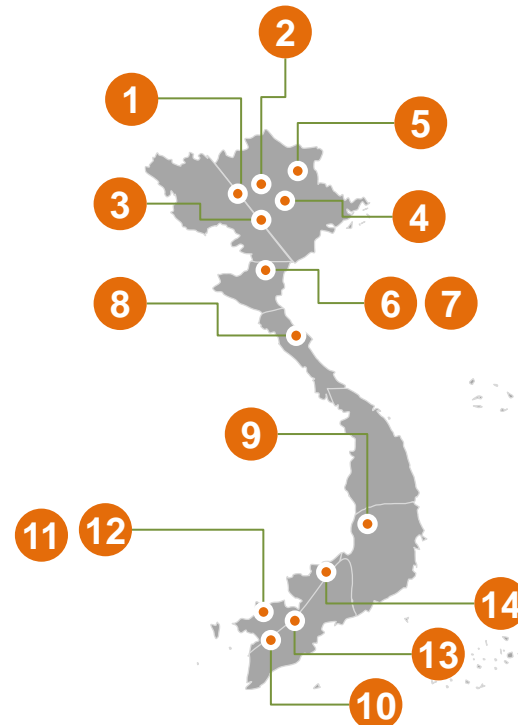
経常利益 **250** 億円

## ベトナムの電源計画に合わせ脱炭素化投資を拡大

### 新設バイオマス発電所

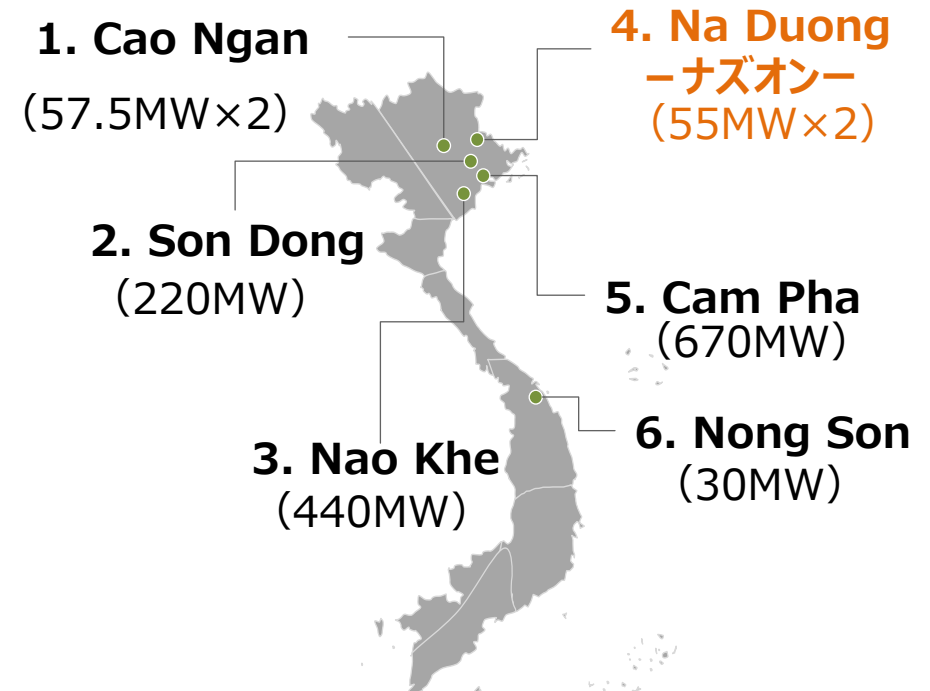
- **14地点** 合計1,060MWを申請
- 先行3地点のフェジビリティスタディ実行中

		プロジェクト名
北部	1	Yen Bai
	2	Tuyen Quang
	3	Hoa Binh
	4	Phu Tho
	5	Bac Kan
中部	6	Thanh Hoa 2
	7	Thanh Hoa 1
	8	Quang Binh
	9	Dak Lak
南部	10	Can Tho
	11	An Giang 1
	12	An Giang 2
	13	Long An
	14	Binh Phuoc



### 石炭火力燃料コンバージョン

- **6地点** 合計1,580MWについて協議
- 今夏のバイオマス燃焼トライアル開始に向け調整



## ベトナム国営企業とフューエルコンバージョンを推進

2022.9

### ビナコミンパワーホールディングスと覚書締結

- 経済産業省主催 第2回アジアグリーン成長パートナーシップ閣僚会合にて合意
- 石炭からバイオマスへの燃料転換および新設バイオマス発電所建設の検討を共同で推進



2023.8-9

### ナズオン石炭火力発電所にて試験を実施予定

- バイオマスの燃焼試験を実施し、ボイラや搬送系統の影響を評価予定
- 発電所周辺のバイオマス燃料を有効利用

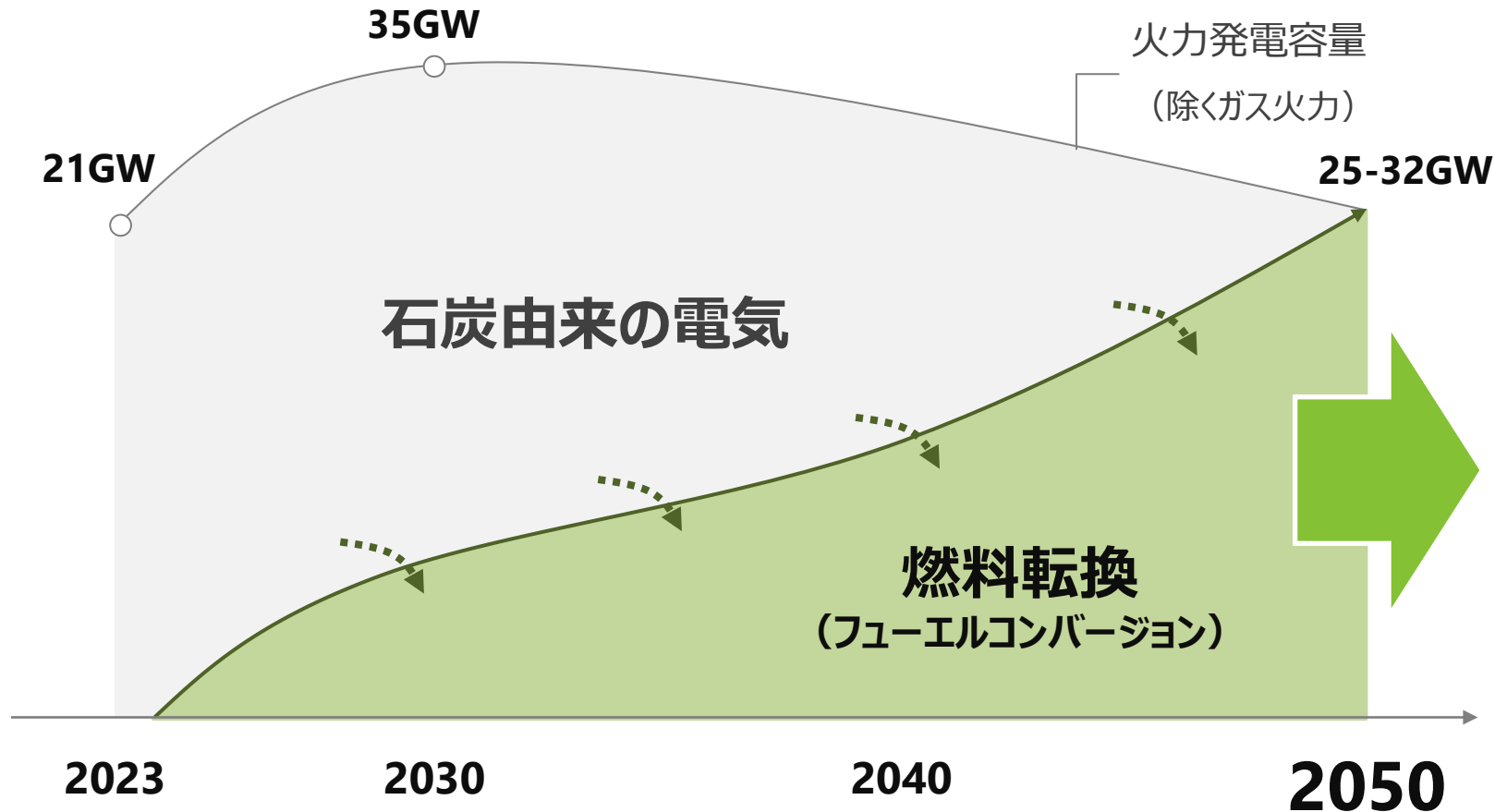


2024~

### 本格的なフューエルコンバージョンを展開

## 2050年に石炭火力を完全に廃止 (PDP8より)

石炭からバイオマスへのフューエルコンバージョンにより脱炭素 ⇒ 既存設備から排出権を創出



- ① PDP8では、2050年までにフューエルコンバージョンにて、石炭由来の電気を0にする目標を公表
- ② 当社の知見を活かし、早期に燃料のコンバージョンを行い、排出権を創出
- ③ 必要なバイオマス燃料の開発を加速

## 脱炭素のリーディングカンパニーへ

# 脱炭素

2050

- ・自社GHG排出ゼロ
- ・水素社会実装への貢献
- ・カーボンマイナスへの挑戦

2030

- ・排出削減貢献量2,500万t/年
- ・脱炭素に資するR&Dの推進
- ・需要・発電一体での再エネ推進

2025

- ・小売事業でのGHG排出ゼロ
- ・海外での再エネ電源開発
- ・国内バイオマス事業の拡大

## バイオマスを中心に脱炭素電源を活用し排出削減



## 気候変動に関わるビジネスが世界的な潮流

### ETS

- 排出権取引（キャップ・アンド・トレード）
- 企業等の排出量に上限を設定し過不足分をトレード

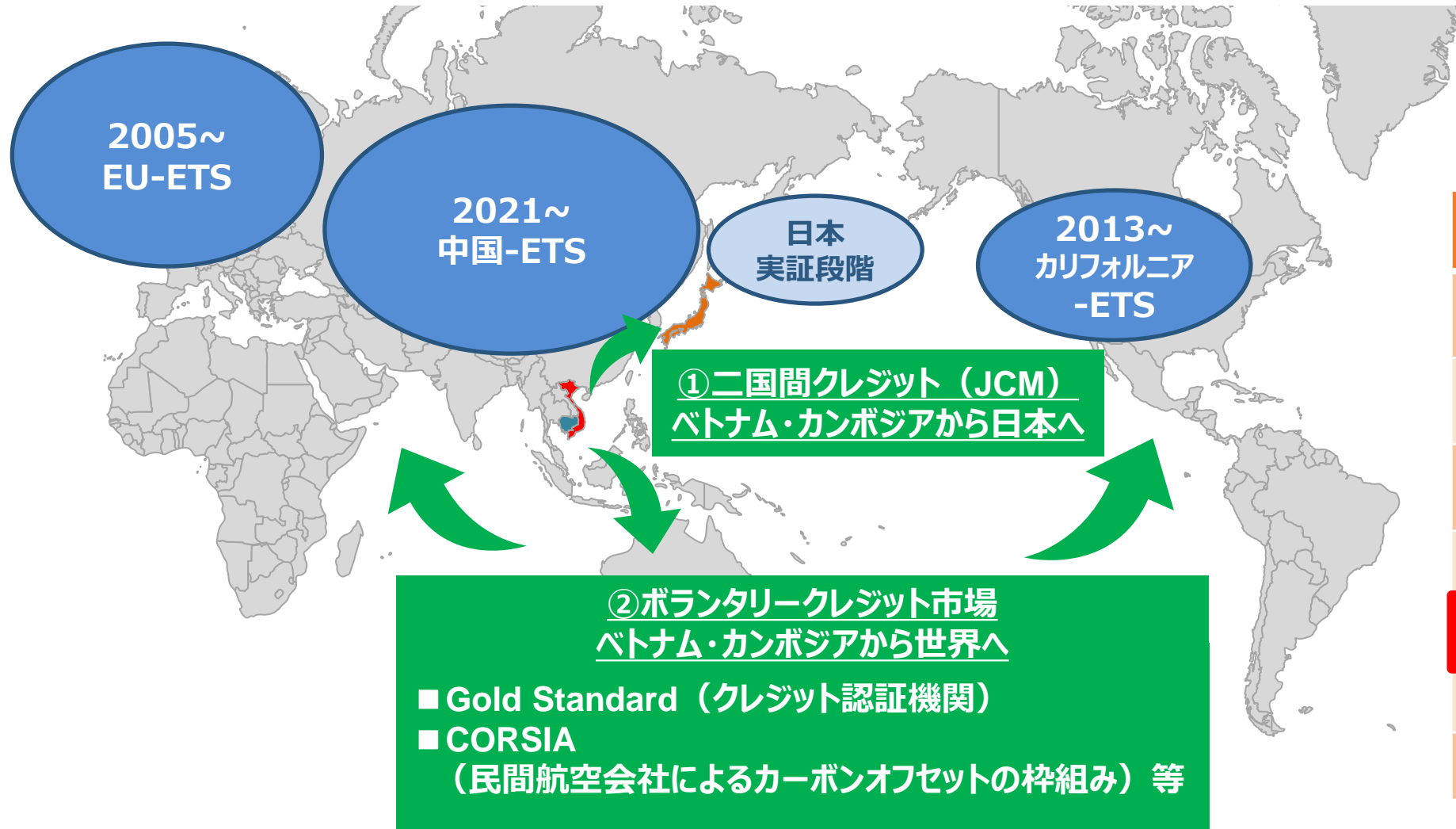
### JCM

- 二国間クレジットとして日本は26カ国と構築（'23年4月時点）
- パートナー国と協力し脱炭素を推進

### ボランタリー クレジット

- 民間主導で発行されるクレジット
- 認証機関としてGold Standard（GS）、Verified Carbon Standard（VCS）等

## 東南アジアの発電所から創出される価値を海外市場で販売



市場	取引量
中国	4,500MtCO2
EU	1,557MtCO2
カリフォルニア	294MtCO2
GS	191MtCO2
日本	18MtCO2
CORSIA	11MtCO2
JCM	0.07MtCO2

※当社調べ

## 脱炭素によるカーボンプレジットが新たな収益の柱に

カーボンプレジット

バイオマス燃料

日本

- Non-FIT大型バイオマス発電所

ベトナム

【発電】

- PDP7 ハウジャンバイオマス発電所
- PDP8 新設バイオマス発電所14案件  
    フューエルコンバージョン

【燃料】

- 新燃料開発に向け作付け中
- 木質残渣等の未利用バイオマス燃料確保

台湾

- 魚電共生型太陽光発電事業

再エネ電源への  
積極投資

カンボジア

水力発電所建設中

マレーシア、インドネシア

- 未利用バイオマス燃料確保・調査

## 2024年度の運転開始に向け建設工事が進捗

基礎工事（試験杭打ち）



運用道路工事



ハウジャンバイオマス発電所 完成予想図



運転開始(予定)

2024年度

売電価格

8.47US cent/kWh

(現地FIT制度による)

発電出力

20MW

(一般家庭約 93,000 世帯分)

燃料

もみ殻(年間約13万 t)

## 未利用バイオマス燃料の活用・新燃料の開発

原木



加工残渣



小枝

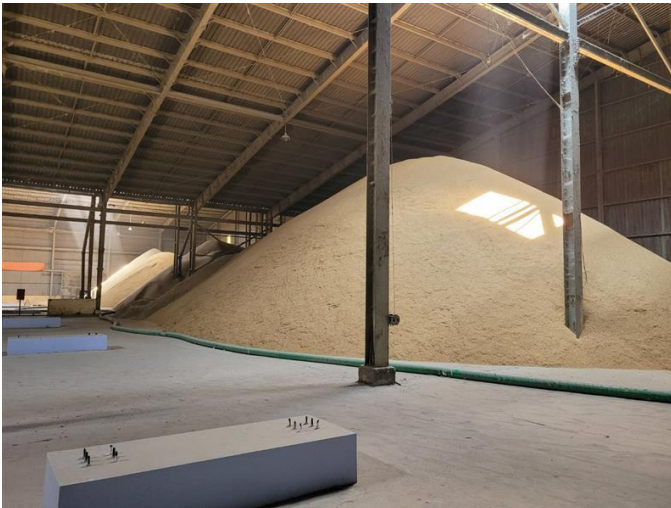


バーク（樹皮）



北部  
ハノイ  
アカシア・ユーカリ等  
の木質残渣

もみ殻保管倉庫



中南部  
新燃料開発  
アンジャン省  
ホーチミン  
もみ殻・稲わら等の  
農業残渣  
南部



ベトナム政府の理解を深め事業を展開

日本政府からの支援も期待されている

チャン・ホン・ハ副首相



ファン・ミン・チン首相



ヴォン・ディン・フエ国会議長



2023年5月

## 水力発電を通じた地域発展と脱炭素価値の創出

本設横断橋工事



迂回トンネル出口掘削工事



完成予想図



発電能力

80MW

売電契約先

カンボジア電力公社

売電価格

7.9¢ / kWh (35年間)

ダム面積、貯水量

85km<sup>2</sup>(12億m<sup>3</sup>)

稼働時期

2025年(予定)

既存事業を更に強靱な体制へ改変し、着実な成長を目指す**強守**

カーボンニュートラル時代を見据え、成長へのエンジンとなる**展開**

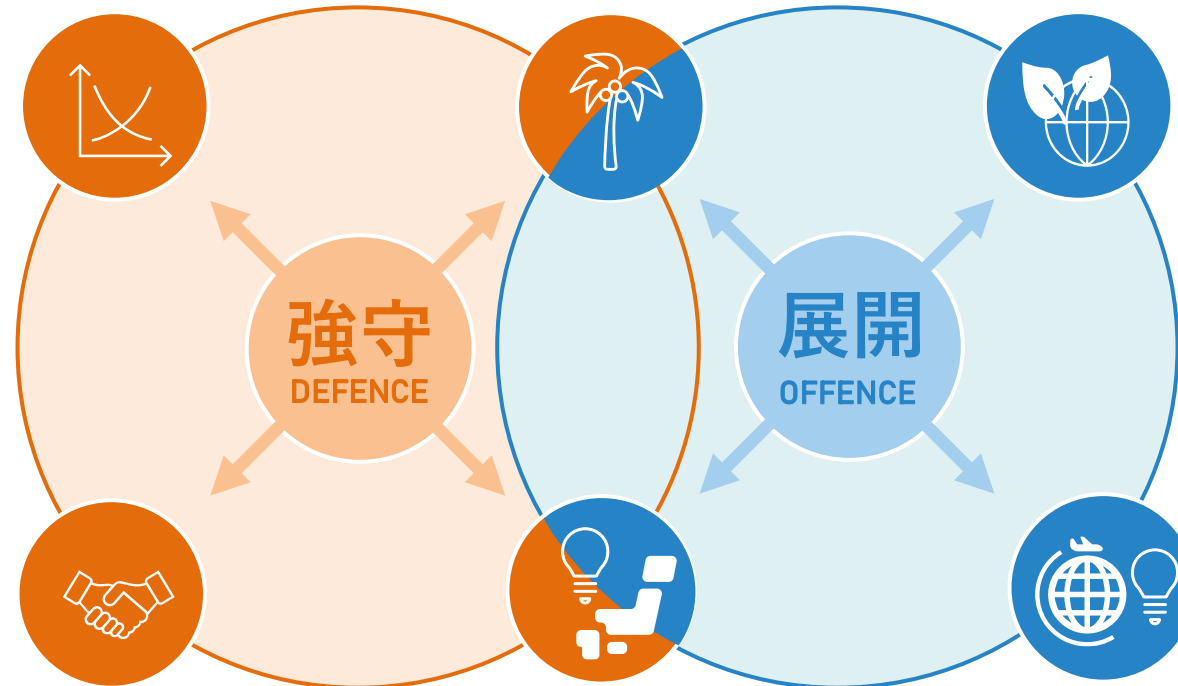
トレーディング

バイオ燃料

カーボンクレジットビジネス

**強守**

- 燃料～小売の一貫体制で堅牢な事業基盤構築
- 需要・発電一体での再エネへの取組み
- 徹底的な効率運営



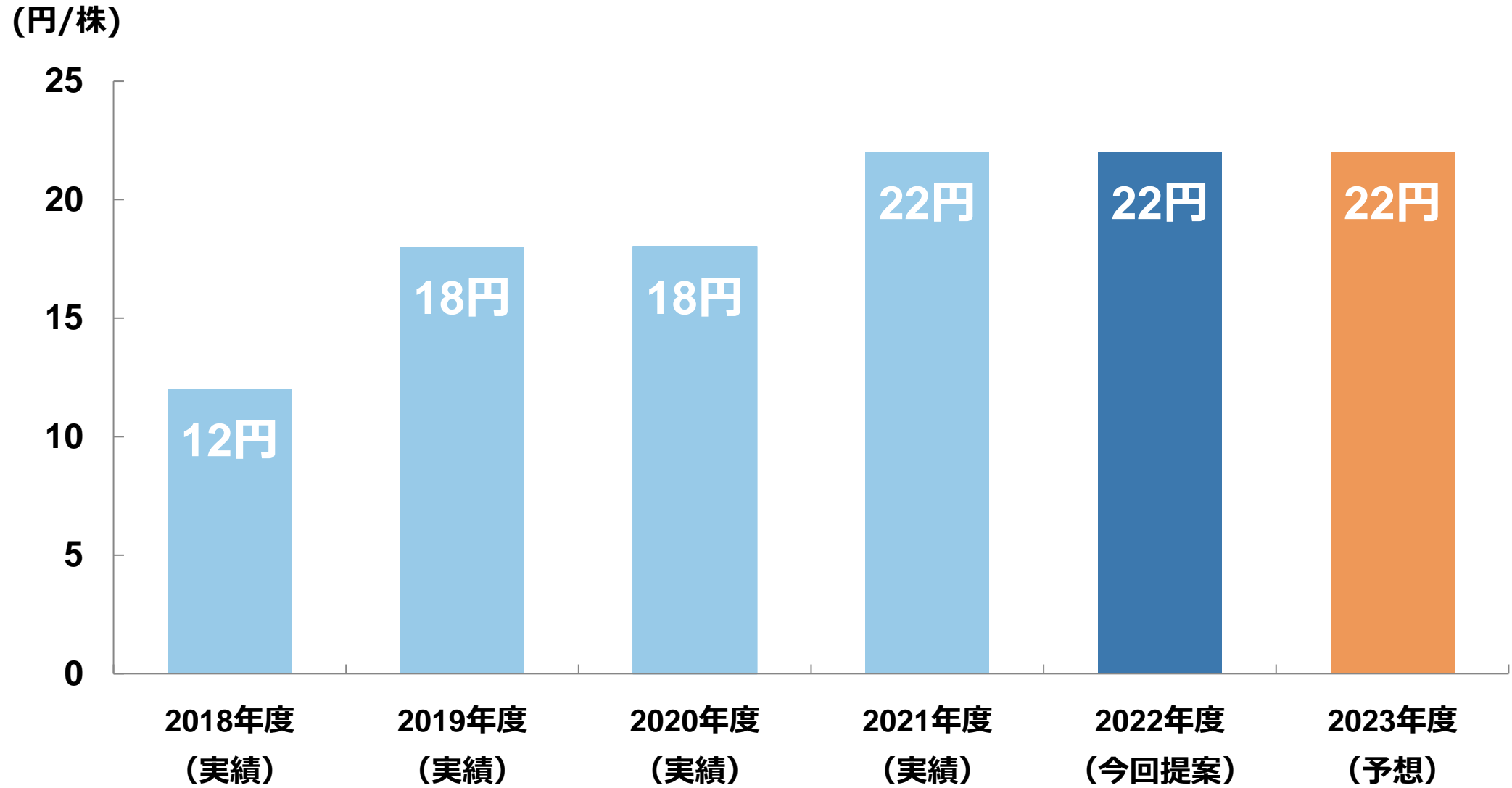
小売事業

国内発電

海外発電

**展開**

- ベトナムでの燃料・発電事業の迅速な推進
- 同様の課題を抱えた国・地域への展開
- バイオマス燃料・発電におけるトップランナーへ



**erex**

**ENERGY RESOURCE EXCHANGE**